

# 暖房器具の安全な取扱いについて

本格的な冬の到来に備え、暖房器具のお手入れなどは万全でしょうか。

近ごろ、便利で安全性の高い暖房器具が増えていますが、それでも毎年暖房器具が原因の火災が発生しています。

その中で最も多く火災が発生しているのが、石油ストーブです。移動が簡単で操作も難しくなく、経済性も高いことから、一般家庭や作業場などで広く使われています。

石油ストーブによる主な事故事例をみてみると  
 ①石油ストーブの上や付近で乾かしていた洗濯物がストーブに落下し、火災になった。  
 ②カートリッジタンクのふたを確実に締めずにセットしたため、漏れた灯油に着火した。

③消火しないで寝てしまったため、布団などが接触したり、周囲に置いていた雑誌などの可燃物が過熱し発火した。  
 ④火を消さずに灯油タンクに給油し、あふれた灯油に着火した。  
 ⑤間違つてガソリンを給油したため火災になった。

以上的事例をみてみると、日ごろの取扱いで慣れや油断が生じ、火災が発生するケースが多いようです。これから日に日に気温が下がり、暖房器具を使う頻度が高くなりますが、火を取り扱っている間は常に火災が起きる可能性があることを忘れないようにしましょう。



## ストーブ火災防止対策!

- ストーブの近くに紙、衣類など燃えやすいものを置かない。
- カーテンなどの近くに置かない。
- ストーブのそばで遊ばない。
- ストーブの近くでヘアスプレーや殺虫剤など引火の危険があるものは使用しない。



- ストーブの上方に洗濯物を干さない。
- 石油ストーブに灯油以外のものを給油しない。



- 給油中は必ず火を消す。
- 自動消火装置付きを使用する。



- 火をつけたままストーブを動かさない。
- 外出するときや寝るときには、必ず消火する。

製品に添付の取扱説明書や器具本体に表示された注意事項を守り、十分に注意してご使用ください。

## 消防士知識 消防士って? 階級のはなし



「消防士」という言葉を、新聞やテレビなどでよく目にしますが、消防職員はみんな消防士なのでしょうか。答えはノーです。では火災のとき、消火活動をするのが消防士で、病気や怪我のとき、救急活動をするのが救命士? それも違うのです。

実は消防士というのは、我々消防職員の一つの階級なのです。消防における消火活動や救急活動は、何名か集まった「小隊」で行います。それを指揮統率するには、隊長の命令を絶対なものにする必要があります。そのための決め事が階級なのです。

現在、10階級あり、胸についている階級章のデザインとともに、次のように定められています。「消防士」というのは、一番下の階級なのです。

	消防総監
	消防監
	消防正監
	消防監
	消防司令長
	消防司令補
	消防士長
	消防副士長
	消防士